

Title	ハンス・ ヨアヒム・ クナウプ教授略歴と主要業績
Sub Title	Kurzbiographie Hans-Joachim Knaup
Author	
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2018
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. ドイツ語学・ 文学 (Hiyoshi-Studien zur Germanistik). No.55 (2018.) ,p.193- 196
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	ハンス・ ヨアヒム・ クナウプ教授退職記念号 = Sonderheft für Prof. Hans-Joachim Knaup
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN10032372-20180331-0193

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

ハンス・ヨアヒム・クナウプ教授 略歴と主要業績

学歴

- 1971年 4月～1974年 3月 ヴュルツブルク大学文学部中国文学専攻
 1974年 4月～1977年 2月 ボン大学文学部日本学科日本学日本文学専攻
 (副専攻：ドイツ文学, 比較宗教学)
 1977年 2月 ボン大学文学部にて日本学・日本文学修了

職歴

- 1977年 10月～1996年 3月 慶應義塾大学非常勤講師
 1984年 4月～1996年 3月 横浜国立大学教育学部外国人教師
 1996年 4月～1999年 3月 慶應義塾大学経済学部助教授
 1999年 4月～2018年 3月 慶應義塾大学経済学部教授

業績

(単著)

- 「制御された雷——畏怖の対象としての雷から音楽・舞台表象としての雷への変貌」『雷文化論』（慶應義塾大学出版会）2007年。
- „*Wege zum Zen zwischen Annäherung und Unerreichbarkeit – Daisetsu Suzukis und Hermann Keyserlings produktiver Dialog* –“. In: *Hier ist Woanders. Das baltische Welterlebnis der Keyserlings*. Universitätsverlag Winter. Heidelberg 2007.
- 『追想「鈴木大拙」——没後40年記念寄稿集』（鎌倉・財団法人松ヶ岡文庫）2006年。
- „*In memoriam Daisetz Suzuki : contributions commemorating the 40th anniversary of his death*“. Ed. by Tsutomu Kaneko. Matsugaoka Bunko. Kamakura 2006.
- 「外国語教育は教養教育に貢献できるか——ドイツとの比較考察を通して——」
 『「教養」を考える——現代を読みとくために』（慶應義塾大学出版会）2003年。

『ドイツ語基本単語 2000』 語研 1991 年。

(共著)

『新 独検対策 4 級・3 級必須単語集』(CD2 枚付き) 白水社 2016 年。

『ドイツ語で手帳をつけてみる』 ベレ出版 2012 年。

„Japanischer Schriftdiskurs zwischen Oralität und Literalisierung“. In: *Philosophie der Schrift, Reihe Germanistische Linguistik 285*. Max Niemeyer Verlag. Tübingen 2009.

『ドイツ語第三部』 慶應義塾大学通信教育部 2009 年。

『ジェム独和・和独辞典』 三省堂 2001 年。

『ヨーロッパ都市めぐり (Europa, eine Städtereise)』 白水社 1996 年。

『絵を見て話そう・Deutsch in Aktion』 同学社 1993 年。

『ドイツ語表現ハンドブック』 白水社 1988 年。

『基本ドイツ語文法読本』 白水社 1980 年。

(単著論文)

「未来派とダヌンツィオ——マリネッティ著『神々の退場, ダヌンツィオ残る』について——」『ドイツ語学・文学』(慶應義塾大学日吉紀要) 第 54 号 (2017 年 3 月)。

「エーレンフリート・フォン・ヒューネフェルト——未来派を具現する貴族的飛行冒険家——」『ドイツ語学・文学』(慶應義塾大学日吉紀要) 第 53 号 (2016 年 3 月)。

「ワイマール期の自動車ブーム風刺——1928 年刊行の『ジンプリチシムス』——」『ドイツ語学・文学』(慶應義塾大学日吉紀要) 第 50 号 (2013 年 3 月)。

「第一次世界大戦後のドイツ航空機産業の国際戦略と日本 (序論) ——ミュンヘン・ドイツ博物館古文書館に存在するユンカース社関連資料の紹介——」『ドイツ語学・文学』(慶應義塾大学日吉紀要) 第 48 号 (2011 年 3 月)。

「[エス] の圏域——ゲオルク・クロデックの精神風景と社会的影響——」『ドイツ語学・文学』(慶應義塾大学日吉紀要) 第 44 号 (2008 年 9 月)。

„Kreative Hör- und Schauerlebnisse – Das Seminar als literarischer und kultureller Inszenierungsraum“. In: *Kafka-Forschung, Koreanische Kafka-Gesellschaft, Band 15*. Seoul 2006.

「ドイツにおける「官」と「民」——公人侮辱罪をめぐる——(特集:せめぎあう官と民)『SCIENCE OF HUMANITY』(勉誠出版) 2001 年。

「『智慧院』・東西知的融合の実験場——ヨーロッパの伝統的認識にたいするカイ

- ザーリングの懐疑と挑戦——』『ドイツ語学・文学』（慶應義塾大学日吉紀要）第33号（2001年9月）。
- 「カイザーリングの日本紀行——西洋認識論の枠組みに映しだされた「大和的なもの」』『ドイツ語学・文学』（慶應義塾大学日吉紀要）第31号（2000年9月）。
- 「藤山治一と実践的ドイツ語教育——明治・大正期のドイツ語教育と軍制との関わりの一例』『言語・文化・コミュニケーション』（慶應義塾大学日吉紀要）第22号（1999年3月）。
- 「ヘルマン・マロンの日本紀行——楽園と独裁の共存する不思議の国 Japan」『ドイツ語学・文学』（慶應義塾大学日吉紀要）第28号（1999年3月）。
- 「藤山治一のシーボルト論——新しい文化伝達の可能性を求めて」『ドイツ語学・文学』（慶應義塾大学日吉紀要）第26号（1998年3月）。
- „Digitalmedien im DaF- und Landeskundeseminar“. 『ドイツ語学・文学』（慶應義塾大学日吉紀要）第23号（1996年3月）。

(講演)

- 「第14回国際連盟総会における田中館愛橋先生の英語講演——講演のオリジナル原稿に関連して——」田中館愛橋会主催講演会（岩手県二戸市シビックセンターホール），2017年5月20日。
- 「田中館愛橋先生のベルリン体験——日記と出会い——」田中館愛橋会主催講演会（岩手県二戸市シビックセンターホール），2015年5月21日。
- 「田中館先生の時代とヨーロッパの技術革命の背景——鉄道・タイプライター・航空機——」田中館愛橋会主催講演会（岩手県二戸市シビックセンターホール），2014年5月21日。
- 「グローバル精神の先駆者としての田中館愛橋先生」田中館愛橋会主催講演会（岩手県二戸市シビックセンターホール），2013年5月21日。
- 「田中館愛橋博士とユンカーズ社」田中館愛橋研究会（東京国際文化会館），2011年4月24日。
- 「第一次大戦後のドイツ飛行機産業の展開と日本との関係——フーゴ・ユンカーズ、カール・ザイツ、アルベルト・シンチンガー」横浜市立大学国際総合科学部・国際文化創造コース，2009年10月16日。
- „Das Seminar als literarischer und kultureller Inszenierungsraum“. Tagung der Koreanischen Kafka-Gesellschaft, Seoul National University, S. Korea. 2006. 6. 9.
- „Die Entwicklung des japanischen Schriftsystems“. Internationales Symposium

- „Vergleichende Untersuchungen zum Schriffterwerb im Deutschen und im Japanischen“, RWTH Aachen, Philosophische Fakultät, 2004.
- „D.T.Suzuki und die zeitgenössische Keyserling-Rezeption in Japan“. Internationales Symposium zur deutschbaltischen literarischen Kultur, Universität Tartu, Estland, 2003. 9. 21.
- „Lightning as an Object of Adoration and Fear in Japan. Taming the Electrical Fire“. Conference on the History and Cultural Meaning of the Lightning Rod. The Bakken Library and Museum, Minneapolis MN, USA, 2002.11. 06.
- „Lenau im fernen Osten – eine kulturübergreifende Rezeptionsgeschichte“. Jahrestagung der Internationalen Nikolaus-Lenau-Gesellschaft, Universitatea de Vest din Timișoara, Rumänien, 2002. 10. 13.
- 「畏怖の対象としての雷から舞台表象としての雷への変貌」 第一回雷サミット, 慶應義塾大学鶴岡タウンキャンパス, 2002年3月23日。
- „Die japanische Kana-Matrix als mehrdimensionales Gedächtnisspeicher-Medium“. Internationales Symposium „Vergleichende Untersuchungen zum Schriffterwerb im Deutschen und im Japanischen“, RWTH Aachen, Philosophische Fakultät, 2001.
- „Kanonisierung des japanischen Schriftsystems — Kanji, Katakana, Hiragana“. Internationales Symposium „Vergleichende Untersuchungen zum Schriffterwerb im Deutschen und im Japanischen“, RWTH Aachen, Philosophische Fakultät, 2000.
- 「明治期の日本とドイツの関わり——首都東京構想にたざさわったドイツ人建築家たち——」 青森県むつ市公民館講堂, 2000年11月26日。
- 「ライフスタイルについて——日本とドイツの比較」 青森県立大湊高等学校川内校, 2000年11月24日。